

委員会会議録

(社)滋賀県トラック協会

会議名	第1回「トラックの日」の事業実行委員会
開催日時	平成20年3月25日(火) 13:35~15:35
開催場所	滋賀県トラック総合会館 3F「研修室1」
出席者	委員12名、事務局4名

協議内容

開会にあたり竹備委員長(会長)からあいさつがあった後、続いて、事務局より資料1の「トラックの日」の事業実行委員会設置要綱で、副委員長は委員長が指名する者がこれに当たる、となっていることを説明、竹備委員長が岡田博氏(副会長)を副委員長に指名した。

引続いて、岡田副委員長から就任にあたりあいさつがあり、議長席に移った後、出席者自己紹介が行われ、議事に入った。

(1)平成20年度事業計画(案)策定について

事務局より資料2~4及び参考資料に基づき説明した。

続いて、岡田副委員長から出席委員に対し「トラックの日」の事業内容について意見を求められたところ次の意見があった。

- ・ 継続性を考えて取組んでいくことが必要ではないか。昨年の「少年野球教室」も3年から5年は実施した方が良いと思う。
- ・ 実行委員会設置要綱の中の目的にもあるように、広く県民にトラックの事業活動を理解してもらい、社会的地位向上に繋がる事業が良いのではないかと。
また、人材確保の観点から後継者や若い人が育てられるような(若い人にターゲットをおいた)事業内容が考えられないか。
- ・ 運輸業界のいろんな問題の中からテーマを絞って考えてはどうか。
- ・ 本来一番良いのが、全日本トラック協会が全国統一のテーマを決め、それを基に全国各都道府県の協会がそれぞれ活動するのが良いのではないかと。
もし、全国でテーマが統一出来ないのであれば近畿の統一テーマを決めて行うのが良いのではないかと。

- ・ もし近畿で統一テーマを決め行うのが難しいのであれば、テーマを決めて県下一円で効果的な活動を行っても良いのではないか。
継続性も大事にしていかなければならないと思う。
会長の思いを聞かせて欲しい。
- ・ 一つの柱を作っていた方が良いのではないか。
昨年の「少年野球教室」も良かったが、もう少しやり方を考えて行えば良かったのではないか。
運送業界をどう理解してもらえるかを考えてはどうか。
- ・ 事業消化形にはならないようにしなければならない。
世間にPRしていけるものに焦点をおいてはどうか。例えば、現在の運輸業界の問題と環境問題。
- ・ 運輸業界が日本経済（生活）を支えているということをPRしてはどうか。
- ・ 業界PRと社会的地位向上をテーマにしてはどうか。
青少年育成ということで、昨年の「少年野球教室」は大変良かった。それと環境対策をミックスした内容はどうか。
- ・ その年での最重要課題をテーマにしてはどうか。
継続性という意味で「少年野球教室」を中心に、当日同時進行する事業の中で何か考えてはどうか。
- ・ 社会的地位向上を県民にPRしてはどうか。
テーマを絞って行えば良い。
- ・ 今まで少しアピール度が低かったのではなかったか。例えば、花火を一つ上げてても良い。
環境対策として、県の「びわこ地球市民の森」事業への参画の継続や地球温暖化対策のアピール、若い人をターゲットにしたもの、その他タイムリーな問題をテーマにしていけばどうか。
- ・ 全国や地域単位で実施出来れば注目度も高くなるのではないか。
テーマを絞って行ってはどうか。

- ・ 全国レベルで行うのが一番良いと思うが、現状では全国や地域毎で行うことは難しいので、今の段階では、滋賀県で出来る最高のものを行えば良いのではないかと。

その時のタイムリーな問題をテーマにしてはどうか。

将来を見据えたものを行ってはどうか。

ドライバーの地位向上を考えても、一方トラックの窓からゴミを投げ捨てるドライバーや前の車が遅いと煽るドライバーもいるので逆に世間の風当たりもきつくなるのではないかと。

- ・ 逆にこういったドライバーもいるということでドライバーを表彰してはどうか。「トラックドライバー感謝デー」として行ってはどうか。

ここで岡田副委員長が、先程の意見があった「会長の思いを聞かせて欲しい」ということについて竹備会長（委員長）に発言を求め、竹備会長から次の発言があった。

- ・ 近畿トラック協会が近畿一本として「トラックの日」の事業を実施出来ないかという話をしたが、他県にはそういった認識がない状態であったので今後の近畿トラック協会の会議で「トラックの日」の事業について毎回30分間時間を頂き検討をしてもらうことになった。

先程も意見があったが、全国レベルで出来ない場合、近畿ブロック、近畿ブロックで出来なければ滋賀県から発信していきたい。

昨年の「少年野球教室」は一応の評価があった。人材不足対策の一環としても青少年にアピール出来るものも良い。

継続性があるものが良い。県とのタイアップで「びわこ地球市民の森」事業への参画は現在3年行ったが5年は続けたい。

マスメディアに採り上げてもらえるような事業を行って欲しい。

続いて、岡田副委員長より、鹿児島県トラック協会では、日頃から環境に優しく、安全に、かつ、車に負担のない運転をしているドライバーにスポットライトを当てるため、平成17年度より「ベストエコドライブ・コンテスト」を開催し、「筆記試験」[安全運転競技]「省エネ運転競技」の基準を総てクリアしたドライバーを「ベストエコドライバー」として認定し、氏名の新聞掲載、協会ホームページ掲載、認定証やバッジの交付、車体表示板（氏名入り）が授与されていることを報告した。

これを受けて、引続き出席委員より次の意見があった。

- ・ 社会貢献の事業を行ってはどうか。

- ・ 「環境」・「安全」・「人材」の三本柱で行ってはどうか。
「環境」は「びわこ地球市民の森」事業への参画、「安全」は「トラックの日」の1ヶ月前から「無事故無違反コンテスト」を行い達成者に新聞掲載し認定証も渡す、「人材」は青少年育成ということで「少年野球教室」を行ってはどうか。
- ・ マスメディア対策として「安全」と「環境」を中心に行ってはどうか。
例えば缶拾いなど、みんなが参加出来る事業が良いのではないか。
- ・ 環境は「びわこ地球市民の森」事業への参画だけでなく、プラス として他に協会から発信出来るようなものが出来ないか。
- ・ クレフィール湖東をうまく活用出来ないか。
- ・ エコドライブ講習をクレフィール湖東で12月に県が行う。それまでにインストラクター講習を行うが、何か参考に出来ないか。
- ・ 「びわこ地球市民の森」事業への参画で木も少しは大きくなってきていると思うが、植樹された木を使って挿し木をしもっと増やせないか。
- ・ 今年は協会60周年という記念の年であることからその辺も考えてはどうか。
- ・ 県とのタイアップ事業を行うことでPRも出来るし、もっとマスコミにも採り上げてもらいやすくなるのではないか。

以上の意見が出され、次回実行委員会で本日の意見を参考に事業内容を引続き検討していくこととなった。

次回委員会

日 時 平成20年4月18日(金) 13時30分~
場 所 滋賀県トラック総合会館